

技報第8号発刊にあたり



執行役員 技術本部長
千々岩 伸佐久

極東開発工業グループ技報第8号をお届けします。

2020年は令和初めての年で東京オリンピックを迎え、極東開発工業は創立65周年と言う印象深い節目の年となるはずでした。ところが新型コロナウィルスの爆発的感染は全世界で恐るべき数の感染者を生み出し、日本でもこれまで経験のない“命”と“経済”的な両立という難題に日々苦闘を続けています。そしてこのパンデミックは年明けから春先の短期間で世界的な生活習慣の変化をもたらしました。平時マスクをする人は花粉症のはびこる日本だけと思っていたが、映像に見られる異国の街角の人がマスク姿になり、この新型コロナウィルスという禍(わざわい)は世界中の人々が習慣を変えるほど衝撃的であったのだと実感させられました。

さて、極東開発工業グループは特装車・環境・パーキング事業等を通して社会に貢献すべく努めて居りますが、近年は技術革新による新しい付加価値を見出す必要性を痛感致しております。我々のお客様はプロフェッショナルの方々であり、その時間を掛けて洗練された作業手順や業務形態を変えて頂ける様な新しい付加価値を見出すことは、前述のコロナ禍による生活習慣の変化と違って能動的にご納得頂く必要があり容易なことではありません。しかし我が国の人口の減少や環境の変化、そして働き方改革などの社会的な変化は、人々に効率・安全・環境をより重んじた変化を求めて

おり、そして近年の技術革新はそれを実現する付加価値を身近にしています。この革新された技術の適用(イノベーション)は自動運転をはじめ様々な分野に広がっており、極東開発工業もお客様に魅力を抱いて頂ける新しい技術開発に取り組み、本誌でご紹介しているAI(人工知能)を活用した安全支援システム「KIES」や、IoT(モノのインターネット)を利用した車両管理支援システム「K-DaSS」を発売致しました。これらは今後もプラッシュアップを続けて参りますが、それにはお客様が何を求めてどんな情報に価値を感じられるかをコミュニケーションによって掴むソフトの最適化が特に重要です。

一方これらの付加価値を受け止める機械装置は、搖るぎない基本性能と品質を確保していかなくては意味が有りません。お客様の信用にお応えするには、これまで極東開発工業が積み重ねた技術の上に立つ確実な製品に、和協の精神で受け止めたお客様の声をバランス良く取り入れた物作りが必要です。混沌として先が見通せない状況になってしまった創立65周年の年に当たり、極東開発工業の社是である【信用・確実・和協】の精神を改めて思い返し、足元を踏み固めながらも新しいトレンドを積極的に創造するべく更なる技術革新に取り組んで参ります。